

重点課題	重点目標	自己評価		学校運営協議会評価 学校運営協議会委員の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
	[教務課]	[教務課]			
	1)「学校で基礎学力をつけることができた」の肯定的回答(生徒)の割合が82%以上をめざす。(R5 79.1%)	1)生徒の「学校で基礎学力を付けることができた」の肯定的回答は、全体平均で82.4%であった。			
	2)「学校の授業が充実していると感じる」の肯定的回答(生徒)の割合が75%以上になるよう、工夫された授業の実施を目指す。(R5 73.4%)	2)生徒の「学校の授業が充実していると感じる」の肯定的回答は、全体平均で79.8%であった。			
	[進学課]	[進学課]			
	1)自らの進路について考えるきっかけを持たせるために、進路ホームページや進路集会、講演会などを年間3回程度行う。	1)1、2年生において各学期1回の進路HRの時間は確保はできたが、講演などは1回しか開催できなかった。			
	2)学習時間調査において学年+1時間の学習時間をを目指す。(R5 平均学習時間 1・2年とも 1.9時間)	2)平均学習時間は1、2年生共に1.9時間であり、昨年と変わらない結果であった。			
	[図書視聴覚課]	[図書視聴覚課]			
	1)図書館利用と読書機会の増加を図る。生徒一人平均の年間貸出冊数を5冊以上にする。(R5 4.2冊)	1)1学年は例年以上の貸出の伸びがあったが、夏期休暇以降低落した。生徒一人平均の貸出冊数は2.9冊(3.10現在)で昨年度より大きく落とした。			
	2)1、2年生の図書館利用と読書機会を増加させる。各1000冊以上。(R5 1年578冊、2年628冊)	2)1年生887冊、2年生261冊(3.10現在)と読書習慣の定着はならなかつた。			
	3)文学以外の貸出を増加させる。(とくに設定はなし)	3)文学以外の貸出は昨年度以上であったが、全体の貸出数減少に伴うものである。			
	[学年]	[学年]			
	1)基礎基本の定着を図り、欠点科目の減少に努める。	1)日々の予習・復習を呼びかけ、基礎基本の定着を図った。各学期末での欠点保持者に対しては、基礎学力補充講座を実施し、学力の向上を図った。			
	2)自主学習時間の確保に結びつくよう、年間3回は取組の内容を確認・評価する。	2)毎月の学習時間調査等、家庭学習の状況を把握しながら、学習への取組を評価し、指導した。			
	3)学力の定着を図る学年集会を各学期に2回以上実施する。	3)各学期初めや城北祭後等、その時に機会を捉えて学年集会を開催し、気持ちの切り替えと積極的な学習への取組を促した。			
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
	[教務課]	[教務課]	[教務課]		
	1)2)教師の授業改善につなげる教科会と授業交流週間の実施	1)授業改善や評価について協議する教科会を年6回実施(R5 6回)	1)教科会を年6回実施した。各教科において、教育課程や観点別評価の工夫等について話し合ってもらつた。時期によっては教員の都合がつかず、文書開催となる回もあった。		
		2)授業交流週間を年2回実施。授業参観教員数の延べ人数75人以上(R5 延べ56人)	2)授業交流週間を6月と11月の計2回実施することができた。授業参観ののべ人数は6月が40名、11月が34名で計74名であった。		
	[進学課]	[進学課]	[進学課]		
	1)普查やテストの意義を伝え、学習習慣を定着させるための適切な内容の一斉テストや定期普查を実施する。	1)校内で実施する試験の意義や準備の必要性をすべての教員が生徒に対して周知する。また、最新の大入試や模試の問題傾向を全校で共有し、作問の質の向上に努め作間に反映させる。	1)校内で実施した模試については、実施後、全教職員が自由に閲覧、利用できるように一定期間、職員室に配置した。必要があればいつでも過去問等を利用できるようにしている。		
	2)平日の家庭学習時間が「学年+1時間」となるよう、各教科で工夫をした課題の設定を行う。	2)生徒が自発的に取り組めるワークシートや課題を作成し、授業を通して取組を促す。	2)3年生については毎日、通行する廊下に自主学習用のワークシートを設置し、利用を促した。1、2年生についてはClassiの機能を利用し、課題を配信したり、提出の仕方を工夫したりする取組が見られた。		
	[図書視聴覚課]	[図書視聴覚課]	[図書視聴覚課]		
	1)読書習慣を身につけるための日常的な読書指導の推進を図る。	1)授業機会や個別の指導、図書館などによって、読書の必要性を見だし問題意識を高揚させる。	1)授業における利用、個別指導や自習空間の提供、読書啓発としての図書館などより発行を適直行つた。		
	2)小論文や受験に關わる指導を契機に読書の内容を充実させる。	2)進路や学問的教養と読書との直接的な関係性について、授業や個別指導の機会に具体的に意識を高める。	2)読書啓発の機会を授業時間を中心に行い、緩やかに読書意欲の喚起が行われた。		
	3)趣味的な読書以外にも読書の必要を実感する機会を作る。	3)社会や世界に対する認識の方法として読書の有効性を説き、学習課題としても読書を啓発する。	3)一部生徒の間に趣味的な読書の範囲を超えて学問への関心の高まりが見られた。		
	[学年]	[学年]			
	1)予習→授業→復習サイクルの習慣化による、学習内容の定着を図る。	1)タブレットを活用して学習時間を探査を通して、学習への取組状況を把握し、適切な指導を行った。			
	2)自らの現状を理解した上でそれぞれの課題を設定し、主体的に学習に取り組ませる。	2)「なぜばれるノート」を介した担任とのやりとりや休み・放課後の時間を利用した個別面談により、生徒一人一人の生活状況や進路希望の把握に努め、日々の反省や早期の目標設定を通して、向上心のある取組を促した。			
	3)進路目標の達成に向けて、時期に応じた目標設定をさせる。	3)学年集会を実施し、適切な時期に意欲を高め、やるべきことを理解させる。			

重点課題	重点目標	自己評価			学校運営協議会評価 学校運営協議会委員の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画 (全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	評価	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	1) 学習指導の充実 (1)基礎的・基本的な知識や技能の定着を土台とし、自ら考え、判断し、表現できる力を養う。 (2)教育DXの推進等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る	[教科] 1)国語 ①月2回の課題提出率90%以上。(R5 90%) ②小テストの月2回以上の実施と合格率80%以上。(R5 73%)	[教科] 1)国語 ①課題提出率は87%であった。 ②小テストの正答率は86%であった。	1)国語 (評価B) ・課題の提出率はやや目標に届かなかった。課題や小テストに取り組む意義を授業の中で強調したい。	-基礎学力の定着が重要だ、1年次の秋までに、中学校の復習をしっかりと、学力を伸ばす工夫をしてほしい。	1)国語 基本的な知識の習得のため基本事項の確認を徹底したい。その上で思考力を問う実践を工夫し、授業の中で生徒たちに取り組ませていく。
		2)地歴・公民 ①授業満足度は地歴92.9%、公民80.4%である。 (R5 地歴93.0% 公民84.4%) ②Classiを活用し、1学年地理総合の作図課題等を提出させる(年4回以上)、小テストをWebテストで実施する。(R5 課題提出3回、小テスト配信4回) ③予習復習プリント(提出課題)提出率95%以上。(R5 96%)	2)地歴・公民 ①授業満足度は地歴92.9%、公民80.4%であった。 ②ICT活用による地理総合作図実習課題を3回提出させた。小テストのWebでの配信を3回実施した。 ③予習復習プリントなどの(提出課題)提出率は96%であった。	2)地歴・公民 (評価B) ・目標値に達していない項目があるが、概ね目標を達成できた。次年度もICT活用方法について研究し、実践したい。	-先生方が多忙で、生徒が教科の先生に質問に行くのをめらうことがあると聞いている。先生に質問する時間や窓口があれば、生徒の学ぶ意欲の向上につながる。	2)地歴・公民 共通テスト問題への対策を見越した授業展開、考え方を実施する。放課後や長期休業時の希望制演習問題補習を充実させる。
		3)数学 ①週末課題提出率90%以上。(R5 84.1%) ②小テストの実施と再テスト合格率95%以上。(R5 95.0%)	3)数学 ①週末課題の提出率は87.3%で目標を達成できなかったが昨年度より上昇した。 ②欠席のため受験できていない場合を除くと、再テストも含めた合格率は95%であった。	3)数学 (評価B) ・目標値には到達しなかったが、課題提出率は昨年度を上回った。次年度に向けて、課題および小テストの実施方法や、ICT教材の活用方法を今後も引き続き検討する必要がある。	-3年間を通しての進度や、よりよい3観点での評価方法の研究を今後も続ける必要がある。	3)数学 3年間を通しての進度や、よりよい3観点での評価方法の研究を今後も続ける必要がある。
		4)理科 ①実験・観察(演示実験含む)を入れた授業を各講座で年間4回以上実施する。 ②長期休業中の課題提出率85%以上。(R5 88.1%)	4)理科 ①実験・観察の各講座あたりの平均実施回数は2.6回であった。 ②課題提出率は94.6%であった。	4)理科 (評価B) ・今年度、実験・観察に関する評価の評価指標を変え、現状把握しやすく改善した。各講座あたりの平均実施回数と、各学期1回+αで年間4回の目標を設定したが、十分とはいえない結果となった。多くの教員の平均実施回数が1回といいうことがわから、今後の課題がよくわかった。	-4)理科 思考力や判断力を育成する機会として、実験・観察の充実は欠くことできない。実験・観察の機会をより充実させることは今後も検討していく必要がある。今後、実験・観察教材の共有やデータベース化を進めさせていたい。	4)理科 思考力や判断力を育成する機会として、実験・観察の充実は欠くことできない。実験・観察の機会をより充実させることは今後も検討していく必要がある。今後、実験・観察教材の共有やデータベース化を進めさせていたい。
		5)英語 ①家庭学習用課題の提出率85%以上。(R5 82%) ②語彙力・文法等の小テスト平均正答率70%以上。(R5 65%)	5)英語 ①家庭学習課題の提出率は84%であった。 ②語彙力・文法の小テストの平均正答率は65%であった。	5)英語 (評価B) ・課題の提出率も小テストの得意も目標にわずかに届かなかった。小テストに活かすことのできる課題の精選や、小テストの復習課題などの充実など、基本事項の定着を図る必要がある。	-5)英語 観点別評価の基準を明確にし、生徒の学力をいかに正確に評価していくか、その方法や評価規準について十分精査し、生徒の学力伸長に取り組んでいきたい。	5)英語 観点別評価の基準を明確にし、生徒の学力をいかに正確に評価していくか、その方法や評価規準について十分精査し、生徒の学力伸長に取り組んでいきたい。
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
		[教科] ○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善	[教科]	[教科]		
		1)国語 ・言語に関する知識・理解の深化 ・思考力を深める力の育成 ・読む・書く力の向上	1)国語 ①各単元・授業及び定期考査で思考を問う発問を課す。 ②評価のフィードバックを行う。 ③観点別評価を行う。	1)国語 ①授業や定期考査の中で思考を問う問題を多数設定し、思考力を高めるよう発問を工夫した。 ②ノートや課題点検を実施し、その結果を授業内容に反映させた。 ③観点ごとに適切な評価を行った。		
		2)地歴・公民 ・基礎基本の定着 ・思考力を深める力の育成 ・技能を習得させる活動の実施	2)地歴・公民 ①予習復習プリント(提出課題)を実施する。 ②共通テスト対策に取り組ませ、思考力を育成する。 ③作図ソフトやデータソフトを活用して技能を習得させる。	2)地歴・公民 ①予習復習プリントや長期休業中課題を毎学期計7回以上提出させた。 ②共通テスト対策として、木曜日の放課後に補習を実施した。 ③地理総合の授業において、1学期後半に地理院地図やICTソフトを活用し、作図実習を行った。		
		3)数学 ・基本的な概念、原理・法則の体系的な理解 ・数学的な表現を用いた事象の考察の徹底	3)数学 ①週末課題プリントの改良及び配布とフィードバック ②小テストの実施とフィードバック ③現実事象など具体的な教材について、グループで活動したり、ICTを活用したりして、考察を深める活動ができるよう工夫する。	3)数学 ①計画どおり実施した。 ②小テストでは基本事項の復習を重視し、再テストの実施方法を工夫するなどした。 ③現実事象を用いた演習問題でICTを活用し、考察を深めた。		
		4)理科 ・論理的思考力、表現力の育成 ・基礎・基本の定着	4)理科 ①実験・観察のレポートや授業のワークシートの考察等の質問内容を工夫し、生徒の振り返りをしやすくしたり、評価にいかしたりできるように工夫する。 ②長期休業中の課題を与え、未提出者なしを目指す。	4)理科 ①計画通り実施した。今後、改善を進める。 ②計画的に課題設定し、基礎・基本が定着するように工夫した。		
		5)英語 ・基礎・基本事項の定着 ・学習意欲および国際性を高めるための授業内容の精選	5)英語 ①語彙・文法・読解等の課題を与え、事後指導まで行う。 ②適切な場面でのICT教材の活用や、生徒の興味を喚起する教材開発を行う。また定期的に小テストを実施し、語彙力および文法力の定着を図る。	5)英語 ①学年ごとに計画を立て、課題や小テストが定期考査や校外模試の参考となるように工夫しながら実行した。 ②教科書や副教材の内容を基に、タブレットを用いた授業や課題提出を積極的に取り入れた。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
	[進学課]	1) 将来の目標を持ち、進路に対する意識を高めるための集会や講演会を各学年で学期に1回以上実施する。 2) 共通テスト出願率70%以上を目指す。 (R5 出願率71.5%)	[進学課] 1) 外部講師による講演会も行ったが、学期ごとにには行えなかつた。 2) 大学入学共通テストへの出願は人數的には昨年とほぼ同様だったが、率は63.3%と昨年より大きく下がった。	[進学課] ・外部講師による講演は、生徒たちに物事を考えさせ、おもしろい世界があると気づかせるものだ。生徒が様々な世界を知ると、やる気につながる。生徒の意欲をかきたてるような人の話を聞く機会を設けることが大切だ。 ・各HRで進路に関するどのような課題があるのかを学年主任を中心に話し合う機会を持ち、学年団全員で進路指導にあたる体制を創りたい。	[進学課] ・共通テストを利用する入試を活用することで、進路選択の幅が広がることを周知し、出願を促す。 ・各HRで進路に関するどのような課題があるのかを学年主任を中心に話し合う機会を持ち、学年団全員で進路指導にあたる体制を創りたい。
	[就職課]	1) 公務員説明会を生徒の希望職種ごとに各1回以上開催すると共に、校外での説明会に積極的に参加させる。 2) 2年生対象にインターンシップを実施し、進路決定に関する意識の向上のため5名以上の参加者を目指す。	[就職課] 1) 生徒の希望状況に合わせ、警察官、自衛官(随時複数回)の校内説明会を実施した。また校外で実施された各種説明会については、希望者各自でそれぞれの説明会に参加する方法をとつた。 2) 県関係事業所でのインターンシップ参加の募集を行つたが、参加者は8名であった。	[就職課] ・探究活動は、今後ますます教育活動において重要になる。学びに対するワクワク感や自立感を持たせほしい。 [就職課] (評価B) ・生徒会での就職指導や公務員説明会を行うことで、早期からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えてきた。 ・生徒の希望する業種への企業訪問や連携を行い、必要な求人を確保することができた。 ・就職指導室の環境を整え、各種説明会、自主学習や面接練習として活用することができた。	[就職課] ・できる限り早期に生徒の特性や希望状況を把握し、必要な求人・情報を確保する。 ・保護者に対してもできる限り多くの情報を提供し、連携を図りながら希望職種・事業所等のミスマッチをなくす。 ・学年集会や進路保護者会を通して、就職に対する早期からの意識付けを図る。
	[キャリア形成支援課]	1) 総合的な探究の時間の生徒の満足度70%以上。 (R5 65%) 2) 理数科学科の生徒の各活動に対する満足度85%以上。 (R5 98.9%) 3) キャリア・パスポートを年間4回以上生徒に記入・整理させる。 (R5 4回以上記入:30.4%)	[キャリア形成支援課] 1) 「総合的な探究の時間は主体的学習意欲の向上に役立っている」のアンケートに対する生徒の肯定的回答は71%で、昨年度を上回った。達成感を得られる体験ができたのではないか。 2) 理数科学科の教育活動全般に対する生徒の満足度は100%と昨年度を上回り、高い割合となった。充実した活動ができたことを生徒が実感している。 3) キャリア・パスポートを生徒に記入・整理させたのは4回が41%、3回が18%で、昨年度を上回った(5回目は3月に実施予定)。	[キャリア形成支援課] (評価A) ・総合的な探究の時間は、外部より助言指導者を招聘することで、生徒は適切な助言を得て視野を広げ、発表のスキルを身につけるなど成長した姿が見られた。 ・理数科学科の教育活動について、生徒がその意義を理解して前向きに取り組み、自身の成長を実感していると推察する。 ・キャリア・パスポートについては、Classiへの記入にしたことでの負担が軽減し、少しずつ習慣が定着していることが見える。生徒教員ともに忙しい学校生活の中で、記録する時間を割かなくてはならないが、それが役に立つ機会があまりないという意識が、整理・記入をさせる機会が高い割合にならないことに影響していると考えられる。	[キャリア形成支援課] ・来年度に向け、生徒が探究活動に取り組みやすいように、すでに改善計画を進めている。 ・理数科学科の県外研修は、来年度は研修先を関西とし、1泊2日に変更して経済的、時間的負担を軽減させた。充実した研修になるよう準備している。 ・キャリア・パスポートについては、その学校生活での位置づけと効用について生徒へ繰り返し説明する。利用の定着に向けて継続して取り組み、教員の利便性をより向上させられるよう工夫したい。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
	[進学課]	1) 進路選択に関する情報提供を充実させる。 2) 全職員がデジタル情報サービスを通じて生徒の学力状況を共有し、組織のかつ手厚い進路指導を継続する。	[進学課] 1) 本年度の進路保護者会は、すべての学年において対面で実施した。 2) Classiやホームページ等を活用し、生徒や保護者に進路情報の発信を行う。 3) 教職員全員にデジタルサービスへの登録を促し、活用の仕方を伝達する。	[進学課] ・総合的な探究の時間は、外部より助言指導者を招聘することで、生徒は適切な助言を得て視野を広げ、発表のスキルを身につけるなど成長した姿が見られた。 ・理数科学科の教育活動について、生徒がその意義を理解して前向きに取り組み、自身の成長を実感していると推察する。	
	[就職課]	1) 就職活動の情報源として、各種説明会や職場見学に加えてインターネットの活用を図る。 2) 生徒のキャリア教育推進のための校外体験活動を推進する。	[就職課] 1) 自衛官、自衛官とともに年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 1学期は3年生が校外公務員模試に参加、2学期は1、2年生対象に校内公務員模試を3回実施した。 2) ハローワーク提供の高校向けインターネット求人情報を最大限に利用する。 3) 生徒の希望する職種でインターンシップに協力してもらえる事業所を開拓する。	[就職課] 1) 警察官、自衛官とともに年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 1学期は3年生が校外公務員模試に参加、2学期は1、2年生対象に校内公務員模試を3回実施した。 2) ハローワークの高校向けインターネット求人情報を活用し、県外就職希望者に情報提供することができた。 3) 県関係事業所へのインターンシップ参加募集をしたが、参加希望者がいなかつた。	
	[キャリア形成支援課]	1) 将来への展望を持つことにより、目標設定や社会に参画する意識を高め、社会的・職業的な自立に向か、必要な基礎となる能力や態度を育成する。 2) 理数科学科 理数探究基礎・理数探究(SP-time) ①生徒の探究活動への主体的な取組を推進する。 ②生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、年間2回発表会を開催する。 3) 年間5回のキャリア・パスポートの日に、生徒に記入・整理されることを通して、自己の生き方や進路を真剣に考える態度を育成する。	[キャリア形成支援課] 1) ②総合的な探究の時間(P-time)、理数探究基礎・理数探究(SP-time) ①2年生では、多くのグループがフィールドワークや幼小中学校への出前授業等、生徒の探究活動や主体的な取組を発表に行なうことができた。 ②普通科、理数科学科とも1年生は1回、2年生は2回生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、発表会を開催した。生徒が取り組むそれぞれの専門分野の外部講師を招聘することにより、生徒は緊張感をもって取り組み、適切な助言を得られた。 3) 「キャリア・パスポートの日」には担当者が職員朝会で担任に呼びかけ、Classiへの記入を促すなどした。活用率は昨年度よりも少し上がった。	[キャリア形成支援課] 1) ②総合的な探究の時間(P-time)、理数探究基礎・理数探究(SP-time) ①2年生では、多くのグループがフィールドワークや幼小中学校への出前授業等、生徒の探究活動や主体的な取組を発表に行なうことができた。 ②普通科、理数科学科とも1年生は1回、2年生は2回生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、発表会を開催した。生徒が取り組むそれぞれの専門分野の外部講師を招聘することにより、生徒は緊張感をもって取り組み、適切な助言を得られた。 3) 「キャリア・パスポートの日」には担当者が職員朝会で担任に呼びかけ、Classiへの記入を促すなどした。活用率は昨年度よりも少し上がった。	

自己評価					学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校運営協議会委員の意見	
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
部活動のさらなる活性化と、生徒会や各種委員会の諸活動の充実	[特別活動課]	[特別活動課]	[特別活動課] (評価日) ・部活動に入部している生徒は多くの力を身につけることができた。より多くの生徒が部活動に所属し、学校生活を充実したものにしていくたい。 ・生徒会・各種委員会では少しずつあるが生徒主体の活動ができ、活性化を図ることができた。このような活動が生徒全体に浸透することを期待する。	[特別活動課] (評価日) ・評価指標が少ない。部活動での活躍も多く、生徒が主体となる様々な活動をしているので、評価指標を増やしてもよいのではないか。 ・昨年度から生徒総会を実施しているとのことだが、生徒が意見を述べる場があるということは非常に良いことだ。	[特別活動課] ・魅力ある部活動により多くの生徒を所属させ、部活動を通して多くの力を身につけさせる。 ・生徒会・各種委員会を中心に生徒主体で学校生活の中の様々な行事を企画・運営し、学校生活をより良しくしていく態度を養う。 ・部活動連絡協議会・生徒総会などをますます充実させ、生徒主体の学校生活が送れるよう促していく。	
	3 特別活動の充実 (1)生徒の自主的な活動を推進することにより、個性を伸ばし、主体性や行動力を養う。 (2)部活動の適正化、活性化により、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育てる。 (R5 79% 保護者77%)	1)部活動入部率の向上を目指し、生徒の自主的活動を促す。部活動を通して集団の一員として必要な協調性、責任感、連帯感などの力を身につけさせる。部活動教育貢献度を80%以上を目指す。 2)生徒会・各種委員会は昨年に比べ、活発に活動でき活性化が図れた。しかし、一般生徒の評価は目標を達成できなかった。 (R6 75.4%)				
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[特別活動課]	[特別活動課]	[特別活動課]			
	1)部活動活性化のために、部活動連絡協議会を開催し、部活動の在り方や要望など、生徒が自主的に活動を進めることを促す。	1)各学期に部活動連絡協議会を開催し、部活動の在り方や要望など、生徒が自主的に活動を進めることを促す。	1)年度初めの1学期に部活動連絡協議会を開催した。部長を中心とした活動の活性化について考え、部員全員が学校の中心となる活動を行っていくことを促した。			
	2)生徒会活動・各種生徒委員会の活性化を推進する。	2)生徒総会の開催・各種生徒委員会の開催を通して、生徒主体の様々な活動を進めながら活性化を図る。	2)7月・12月に生徒総会を開催した。校則の改定や要望などをクラスから出し、議長会などを通じて進めることができ、来年度に向けた課題についても意見が出た。生徒主体の活動が進められ活性化を図ることができた。各種委員会も活発な活動ができた。			

令和6年度 徳島県立城北高等学校 学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校運営協議会評価 学校運営協議会委員の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標	評価		
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	(全校レベル)	評価指標と活動計画	評価指標	評価	特になし	[人権教育課] ・人権学習は日常生活の中にあるが、様々な問題を自分事として捉え、考えを深めるために人権ホームルーム活動を設定している。教師と生徒が一つの問題についてともに学び、そしてともに成長する場がホームルーム活動であると考える。扱うテーマについては、日常的課題から今日的な課題まで、今後より一層精選し、深く学び、ともに学んだと実感できるホームルーム活動になるよう取り組んでいく。
	[人権教育課]	1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で、肯定評価を81%以上にする。(R5 79.6%)	[人権教育課]	1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で、肯定評価は74.4%であった。		
	[人権教育課]	2)人権教育関連行事に対する生徒の評価で肯定回答を83%以上にする。(R5 82.6%)	[人権教育課]	2)人権教育関連行事に対する生徒の評価で肯定回答は76.9%であった。		
	[人権教育課]	3)各教科における人権学習・人権教育を必要に応じてICTなどを活用して計画的に実施する。(R5 おおむね良好)	[人権教育課]	3)各教科における人権学習・人権教育をタブレット・ICTなどを活用し、計画的に実施することができた。		
	[人権教育課]	4)生徒対象の人権教育講演会を年2回以上実施し、肯定評価を83%以上とする。(R5 82.6%)	[人権教育課]	4)生徒対象の人権教育講演会を年2回実施し、肯定評価は76.9%だった。		
	[人権教育課]	5)全体の人権教育研修会を年1回以上実施する。(R5 3月に実施)	[人権教育課]	5)全体の人権教育研修会は今年度は3月に実施する予定である。		
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[人権教育課]	[人権教育課]	[人権教育課]			
	1)ホームルーム活動の充実	1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集め採択し、ICTを活用するなど展開を工夫する。	1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて動画資料を含めた資料を集め採択するなど、ICTを活用した展開を行った。			
	2)人権集会・人権習慣に向けての取組の充実	2)人権集会・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒に人権問題をテーマとした展示物を作成し、啓発に努める。 3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。 4)生徒・保護者対象の人権教育講演会を5月と11月に実施する。 5)教員対象の人権教育研修会を12月に実施する。	2)人権集会・城北祭・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒に夏休みの宿題として人権問題をテーマとした展示物を作成し、城北祭・人権月間において展示し、啓発に努めた。 3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施した。 4)生徒対象の人権教育講演会を年2回実施した。第1回人権集会は5月30日(木)、精神福祉士・間愛結美氏をお招きし、「精神保健福祉士の現場から考える『貧困と社会を支える仕組み』」と題して実施した。第2回人権集会は11月14日(木)、公益財団法人反差別・人権研究所みえ(ヒューリコみえ)研究員 松原淳氏 をお招きし、「部落問題って、だれの問題ですか? ~今もある部落差別の現実から考える~」と題して実施した。 5)全体の人権教育研修会は今年度は3月に実施する予定である。			

令和6年度 徳島県立城北高等学校 学校評価総括評価表

自己評価					学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校運営協議会委員の意見	
規範意識の一段の向上とルールを守りモラルやマナーを大切にすること、いじめをやめる心の育成	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
	[生徒指導課]	[生徒指導課] 1)モラルや社会的マナーの指導の強化について、生徒・保護者の肯定回答を83%以上とする。 (R5 生徒 83% 保護者 81%) 2)年間総遅刻数を前年に比べ10%削減する。 (R5 3学期末で1637人) 5 生徒指導の充実 (1)基本的生活習慣の確立を図り、節度と品位のある礼儀正しい生活態度を育成する。 (2)個々の生徒の状況に応じた指導や支援を行う。 (3)いじめを「しない・させない・見過ごさない」決意を学校全体で共有し、実践する。	[生徒指導課] 1)身近な事案を取り入れながら、学校全体で指導に取り組み、意識の変革と向上に努めた。生徒・保護者の肯定回答は両者共に80%を上回った。 (生徒84%、保護者80%) 2)1・2学期の遅刻数1081人。昨年より減少傾向にある。 3)軽微なものも含め、登下校時の交通事故件数を前年に比べ10%削減する。 (R5 交通事故件数 23件 3学期末) 4)いじめを許さない指導。いじめアンケートを年2回実施する。	[生徒指導課] [評価日] ・モラルや社会的マナーの指導を通して、社会規範意識の向上に努めるという点ではA評価を得ているが、基本的生活習慣の部分で遅刻に対する意識改善が図れず、目標は達成したが、まだまだ総数が多いのが現状である。 ・交通事故については、余裕のない運転や安全確認が不十分であった等を理由とするものが多くかった。 ・いじめ調査の結果を、いじめに繋がる恐れのある運動等の早期把握と対応に繋げることができた。表面化していないだけの事案があるかもしれないでの、小さな変化に注意して対応していくことが必要である。	[生徒指導課] ・基本的生活習慣の確立を図るために、遅刻防止に向けた活動を学校を挙げて行う。 ・自転車安全教育の徹底と強化を図り、自転車マナーの規範意識・ヘルメット着用を向上させ、交通事故の防止に向けた指導を継続していく。 ・いじめに繋がる恐れのある言動を見過ごさないように、生徒観察に努め、教員間の情報共有を密にしながら継続して行う。	
(下位組織レベル)	評価指標	活動計画の実施状況				
	[生徒指導課]	[生徒指導課] 1)道徳的・社会的マナーの指導と情報モラルの育成 ①頭髪服装指導の強化 ②情熱機器の安全な使用方法と個人情報の自己管理の徹底 2)安全教育の徹底 3)いじめ調査アンケートの実施と活用	[生徒指導課] 1)日常的に行うこととし、学校行事や学年集会では指導を徹底する。 ①頭髪服装検査(年間3回必須、全年度) ②ネット被害の現状等講演会の実施 2)立派指導の継続と安全に対する意識の変容に努める。 ①交通安全教室の開催(年1回全学年) ②各学期ごとに 齊指導を実施 ③クラス毎に年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ④学年集会での注意喚起 ⑤毎月20日マナーアップ活動の実施 3)7月・12月にいじめアンケートを実施し、現状把握すると共に担任面談等に活用する。			

令和6年度 徳島県立城北高等学校 学校評価総括評価表

自己評価					学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校運営協議会委員の意見		
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	特になし		
	[環境防災課]	[環境防災課]			[環境防災課] (評価B) ・学校の環境美化や資源保護等の取組について、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的にゴミ分別、節電・節水、ゴミの分別、文化祭でのゴミ箱の設置や管理等を協力的に取り組んでおり、校内環境が整った。また、環境委員や有志による通学路清掃奉仕活動にも取り組んだ。	[環境防災課] ・環境防災委員によるクラス及び全校集会での直接的な呼びかけを徹底し、生徒が協力的、主体的に行動できる力を身につける。 ・防災避難訓練の早い時期での実施。4月中に実施したい。 啓発事項 環境委員 ①校内及び周辺の美化 ②「とくしまGXスクール」に関する活動の推進 防災委員 ①自然災害への対応 特別警報、風雪災害など ②東南海地震への対応 初期避難、防災避難訓練	
6 安全・防災・環境教育の推進 (1) 自他の生命や健康・安全を尊重する態度を養い、事故の未然防止に努める。 (2) 災害発生時に適切な対応ができる体制作りに努める。 (3) 校内環境の美化に努め、公共心や豊かな情操を育む。		1) 清掃活動の取組について肯定回答80%以上を目指す。 (R5 78.3%) 2) 年間に防災避難訓練を2回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。	1) 教職員、環境委員、生徒会を中心に行なった校内美化や環境資源の保護に取り組めた。(肯定回答 82.0%) 2) 防災避難訓練を5月と9月に実施した。5月の地震後の津波を想定した訓練では、3階以上に1次避難をしたのち、グラウンドへ2次避難をした。生徒も落ち着いて迅速に行動することができた。また、防災委員が要所に立つなどし、スムーズで安全な避難を促した。学校長の講話や避難経路の確認などを十分行うことができた。地域のことも園との合同訓練も実施した。 その後、11月に緊急地震速報行動訓練(机下避難訓練)を実施した。校内の掲示板や各教室に構内避難経路を掲示し、災害時の避難経路の案内を図った。 3) ゴミの分別・資源保護の取組について肯定回答82%以上を目指す。 (R5 81.0%)	3) 学校内外の清掃活動・ゴミの分別・資源保護に積極的に取り組めた。(肯定回答81.5%)			
(下位組織レベル)	[環境防災課]	活動計画	活動計画の実施状況				
		[環境防災課]	[環境防災課]				
1) 環境委員を中心にさまざまな活動を通して環境問題についての意識啓発をする。		1) 生徒・職員で毎日清掃作業を行う。	1) 毎日授業後、生徒・職員が校内の清掃を行った。また、環境委員や有志による通学路清掃奉仕活動も2回実施した。				
2) 生徒会と環境委員を中心として啓発を推進する。		2) ゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を推進する。	2) 教職員、環境委員、生徒会を中心に行なった校内美化や環境資源の保護に取り組んだ。「とくしまGXスクール」に掲げるゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を積極的に行なった。				
3) 防災委員会の活動を通して、知識や実践力を身につける。		3) 防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災意識の啓発も進める。	3) 防災委員会を中心に災害避難訓練を実施した。文化祭では、防災に関するポスターを展示し、防災意識の啓発に努めた。				

重点課題	重点目標	自己評価			学校運営協議会評価 学校運営協議会委員の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価・所見		
学校外との交流・連携 やHPIによる広報活動 のさらなる活性化とボランティア活動を支援 する校内組織づくりの推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>・ICTを活用するとアンケートの回収率は下がる。ただ、自由記述は増える傾向にあるので、より具体的な意見を聞くことができる。</p> <p>・城北には、建学の精神などの伝統や歴史など唯一のものがある。生徒自身が振り下げる調べ、外部に発信する機会があるといよい。</p> <p>【情報教育課】 ・引き続きホームページの更新回数の増加に努めたい。 ・引き続き生徒と保護者への情報提供の充実に努めたい。</p> <p>【国際交流課】 ・今後も県内における国際交流の研修会などの案内に努め、交流活動に積極的に参加する生徒の数を増やす。また、ドイツとの姉妹校交流については、オンライン形式に加え、隔年で受け入れ等の交流も行いながら、内容をさらに充実させる。</p> <p>【特別活動課】 ・様々な分野でのボランティア活動の呼びかけをし、より多くの生徒がボランティア活動に参加できる機会を設ける。</p> <p>【総務課】 ・今年度実施した活動をさらに充実させ、より多くの保護者が参加できるよう工夫する。</p>	<p>【学校評価委員会】 1)保護者アンケートの回収率80%以上をめざす。(R5 79.0%) 2)学校運営協議会を年3回開催する。(R5 3回開催)</p> <p>【情報教育課】 1)ホームページについて改訂を行うとともに、情報の速やかな発信に努める。(更新回数 R5 290回) 1)ホームページについては、更新回数が昨年度と比較して増加した。(更新回数 R6 316回) Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信も必要に応じて行うことができた。</p> <p>【国際交流課】 1)ドイツ姉妹校との学校間交流を定期的に行う。 2)県内における国際交流の活動を周知し、積極的な参加を呼びかける。 3)本校ALT(外国语指導助手)との交流を通して、県内におけるスピーチコンテストへの積極的な参加を呼びかける。</p> <p>【特別活動課】 1)ボランティア活動への積極的な参加を呼びかける。</p> <p>【総務課】 1)新型コロナウイルス感染症への対応が見直されたことを受け、以前行っていたPTA活動をできるだけ復活させ、さらに活性化させる。また、ホームページでPTA活動の報告書をし、保護者がより興味を持ち、参加しやすい状況をつくる。 2)業務を円滑に遂行する。</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>【学校評価委員会】 1)職員・生徒・保護者アンケートを11月に実施する。 2)学校運営協議会との協力体制を図る。</p> <p>【情報教育課】 1)ホームページ運営上の組織及びホームページの体系について見直しを行う。</p> <p>【国際交流課】 1)ドイツ姉妹校交流の推進 2)徳島県内におけるスピーチコンテストへの参加の促進</p> <p>【特別活動課】 1)ボランティア活動への積極的参加の奨励</p> <p>【総務課】 1)PTA活動の円滑な運営と充実・活性化 2)学校行事等における外部との連絡調整</p>
	[学校評価委員会]	[学校評価委員会]	1)保護者アンケートの回収率は64.8%で昨年度から減少し、目標には届かなかった。	[学校評価委員会] ・今年度よりGoogleFormによるアンケートに変更した。実施期間を1週間延長したが、保護者の回収率の目標達成には至らなかった。 ・学校運営協議会については定期的に実施し、さまざまな意見をいたくことができた。		
	[情報教育課]	[情報教育課]	1)ホームページについては、更新回数が昨年度と比較して増加した。(更新回数 R6 316回) Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信も必要に応じて行うことができた。	[情報教育課] ・教職員間の情報伝達にClassiを用いることで、生徒や保護者への情報提供を適切に行えるよう日常的に活用している。 ・全体的にホームページの更新回数が増えた。		
	[国際交流課]	[国際交流課]	1)隔年での交流のため、今年度は交流はなかった。 2)四国大学主催の英語セミナーに3年生1名が参加した。 3)第78回徳島県高等学校英語弁論大会に2年生2名が出場した。	[国際交流課] ・リトアニアの高校とオンライン交流ができたことは良かったが、今年度は一度しかできなかつた。		
	[特別活動課]	[特別活動課]	1)各ボランティアを積極的に呼びかけ、生徒の参加を奨励した。	[特別活動課] ・案内した各ボランティア活動に多くの生徒が参加することができた。		
	[総務課]	[総務課]	1)城北祭におけるPTA活動、研修部校外研修(大学視察)を実施した。また、それらの活動を適宜ホームページで報告した。 2)業務を円滑に遂行することができた。	[総務課] ・復活てきたPTA活動も含めて、円滑な業務の遂行ができた。		
	[学校評価委員会]	[学校評価委員会]	1)職員・生徒・保護者アンケートを12月に実施した。	[学校評価委員会]		
	[情報教育課]	[情報教育課]	2)学校運営協議会を各学期に1回開催した。	[情報教育課]		
	[国際交流課]	[国際交流課]	1)学校からのお知らせを速やかに発信するとともに、生徒の校外への活動を広報できる魅力のあるホームページづくりに努める。	[国際交流課]		
	[特別活動課]	[特別活動課]	1)今年度はドイツとの交流はなかったため、10月にリトアニアの高校と本校生徒との間でオンライン交流を行った。 2)県内のスピーチコンテストにおいて、2年生の生徒2名が参加した。	[特別活動課]		
	[総務課]	[総務課]	1)PTA活動における各種連絡調整や、新たな研修等を企画する。 2)城北祭で保護者が参加しやすい運営方法を提案する。	[総務課]		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
運営組織の活性化と教職員研修の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
	[情報教育課]	[情報教育課]		[情報教育課] ・情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を、年4回実施した。	[情報教育課] ・来年度も今年度同様、うまく研修の機会を確保したい。また、必要に応じてその都度連絡もしたいと考えている。
	[コンプライアンス委員会]	[コンプライアンス委員会]		[コンプライアンス委員会] ・今年度は年4回の研修を実施できた。また、職員朝礼等での都度必要事項の連絡を行った。 ・研修の機会の確保が困難であつたが、Microsoft Teamsの効果的な使用については、研修等を通じて紹介することができた。	[コンプライアンス委員会] ・次年度はMetaMoji ClassRoomについての研修の機会を確保し、実施したいと考えている。
	[保健厚生課]	[保健厚生課]		[保健厚生課] ・各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることで、生徒の就学の機会の確保につなげた。	[保健厚生課] ・さらなる業務の効率化や縮減に取り組み、教職員の在校時間削減を図る。
	[特別支援教育課]	[特別支援教育課]		[特別支援教育課] ・教職員対象の教急救命講習会を1学期に実施した。	[特別支援教育課] ・教職員対象の教急救命講習会を1学期に実施した。
	[学校全体]	[学校全体]		[学校全体] ・教職員対象の教急救命講習会を2学期に実施した。	[学校全体] ・教職員対象の教急救命講習会を2学期に実施した。
				[学校全体] ・各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることができた。	[学校全体] ・各種奨学金の案内や説明会を実施し、必要とする生徒に必要な情報を伝えることができた。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
	[情報教育課]	[情報教育課]	[情報教育課]		
	1)教職員研修の充実 2)GIGAスクール構想の推進	1)ICTを用いて全教員が授業を実施できるための研修を計画し実践する。 2)Microsoft Teams、Classi、MetaMoji ClassRoom等の効果的な使用例について紹介する機会を設け、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用する。	1)ICTを用いた全教職員に対する研修を2学期に実施した。 2)ChromeBookの効果的な使用例については、研修等を通じて紹介でき、授業及び学年単位・HR単位の情報発信に活用できた。MetaMoji ClassRoomについても、教育委員会の研修を利用することができた。	[学校全体] ・出退勤システムやJoruriポータル、Classiなどを活用することで、時間外在校等時間の削減や業務の効率化においては依然改善の余地があり、今後も継続して取り組む必要がある。	[学校全体] ・支援を必要としている生徒に対し継続してスクールカウンセラーを活用しながら支援する。また、共通理解を図るために臨床心理士とのコンサルテーションを実施し、生徒個々に応じた丁寧な支援を行う。
	[コンプライアンス委員会]	[コンプライアンス委員会]			
	1)教職員研修の充実 2)コミュニケーションの促進と風通しの良い職場環境づくり 3)ワーカライバランスの推進とメンタルヘルスの保持増進	1)年間2回以上の推進期間及び随時適切な機会を設けて、バランスのとれた啓発・研修を行う。12月に講師を招請して教職員対象の研修を行う。 2)危機管理に関する具体的な事例に基づく研修を実施する。 3)業務内容の見直しやICT活用による作業の効率化等を行い、教職員の業務負担を軽減する。	1)夏ヒビの2回のコンプライアンス推進週間にeラーニングを実施するとともに時宜を得た啓発等を36回行った。12月には計画取り教職員対象の研修を実施した。 2)避難訓練や具体的な事例に基いて了りと捉えた研修の機会を持ち、危機管理意識の向上を図った。 3)各分掌・教科で業務内容の見直しやICTの活用に取り組み、業務軽減の一端を担うことができた。	[学校全体] ・出退勤システムやJoruriポータル、Classiなどを活用することで、時間外在校等時間の削減や業務の効率化、ペーバーレス化などに一定の成果はあった。	[学校全体] ・時間外在校等時間の削減や業務の効率化に関しては依然改善の余地があり、今後も継続して取り組む必要がある。
	[保健厚生課]	[保健厚生課]	[保健厚生課]		
	1)教職員対象の教急救命講習会の充実 2)教職員対象の健康相談会の実施 3)奨学金に関する情報提供の工夫	1)教職員対象の教急救命講習会を1学期に実施する。 2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。 3)生徒や教職員に各種奨学金の案内や説明会を実施するとともに、ホームページにも掲載し、必要な人に必要な情報を伝わるよう工夫する。	1)教職員対象の教急救命講習会を1学期に実施した。 2)教職員対象の健康相談会を学校医を招き2学期末に実施した。 3)各種奨学金の案内や説明会を実施するとともに、ホームページにも掲載し、必要とする人に必要な情報を伝えることができた。	[学校全体] ・出退勤システムやJoruriポータル、Classiなどを活用することで、時間外在校等時間の削減や業務の効率化においては依然改善の余地があり、今後も継続して取り組む必要がある。	
	[特別支援教育課]	[特別支援教育課]	[特別支援教育課]		
	1)特別支援を必要とする生徒の特性に対する対応を考えケアに努める。	1)教職員対象の特別支援教育について理解を深める研修会を実施する。 2)特別支援の対象となる生徒について校内で理解を深めるケース会議・教科会を実施する。 3)必要のある生徒にはスクールカウンセリングの制度を活用し、支援していく。	1)2学期10月に特別支援教育について研修会を実施した。 2)共通理解を図るため適宜ケース会議・教科会を開催し、支援のあり方を話し合った。 3)スクールカウンセリングを希望する生徒が有効に活用し、コンサルテーションにおいて支援の方法を話し合った。	[学校全体] ・出退勤システムによる勤務時間の見える化により、時間外勤務が月80時間を超える者に対しては、勤務時間削減に努めるよう管理職が促した。	
	[学校全体]	[学校全体]	[学校全体]		
	1)教職員の時間外在校時間の把握 2)ICTの活用による業務の効率化	1)出退勤システムによる時間外勤務の正確な把握と見える化に努め、月80時間を超えた場合は改善のために管理職と面接をす。2)Joruriポータルの掲示板・回覧板の活用及び会議でのペーパーレス化を図る。	1)出退勤システムの正確な入力による勤務時間の見える化により、時間外勤務が月80時間を超える者に対しては、勤務時間削減に努めるよう管理職が促した。 2)Joruriポータルの掲示板やタブレットを活用し、職員朝礼や職員会議におけるペーパーレス化を進めることができた。	[学校全体] ・Joruriポータルの掲示板やタブレットを活用し、職員朝礼や職員会議におけるペーパーレス化を進めることができた。	